

① オニバスの育て方

■ オニバスについて

池などに生える。1年で枯れてしまうが、かなり大きく成長する草。ハスに似ているが葉や茎にトゲがいっぱいあることから「オニバス」と名付けられました。

昔は、「さすがに京都」^{しゅうへん}周辺の大きな池や沼にも生えていたが、今ではオニバスが生える大きな池は埋め立てられてしまいました。



オニバスの葉と花

■ オニバスの育て方

必要なもの

水：水道の水で大丈夫。水は土の上から10～20cmあると良い。

水が少なくなったら足して、水がなくならないようにしましょう。

土：ホームセンターなどで売られている「荒木田土」^{あらかきだど}やイネ用の土が良い。土の厚さは容器の底から20～30cmあると良いです。

容器：土が入り、水がためられれば何でも使える。大きいほどオニバスの葉も大きく育つ。バケツでも育ちますが、葉は小さくなります。タライ^{ちよっけい}（直径30cm以上）などがおすすめ。



バケツで育つオニバス

タネを植える・芽が出てくる（3～4月）

- ・ 陽がよくあたる所^{そだ}で育てましょう。
- ・ タネを土の上に置いて、浮かんでこないように薄く土をかぶせましょう。全部のタネからは芽が出ないからことが多いので、3粒を一つの容器^{ようき}に植えてOK。
- ・ 3月終わりから5月はじめごろに芽を出します。まず細い白い葉（右の写真）が伸びてきます。



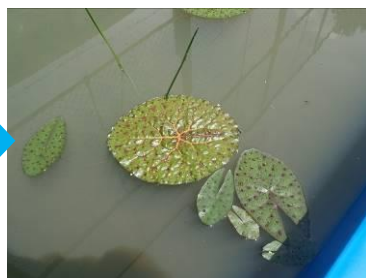
オニバスのタネから出てきた芽

葉の形が変わりながら大きくなっていく（4～8月）

- ・ 芽が出てから、針のような葉→矢じり^{がた}型の葉→スイレンのような葉→大きな丸い葉…と、葉の形が次々変わりながら大きくなっていきます。オニバスの葉や茎にはとがったトゲがあるので、さわるときは注意^{ちゅうい}しましょう。



スイレンのような葉



丸い葉が出てきた



大きな丸い葉がいっぱい

花がさく（8～10月）

- ・ 8月から10月ごろまで花をつけます。オニバスの花は花びらが開く花と花びらが開かずつぼみのままの花の2種類あります。花びらが開く花は珍しいので、見つけたらとてもラッキー！写真を撮って、オニバス里親プロジェクトのみんなに知らせましょう。



花びらが開く花



花びらが開かない花

タネができる・タネをとる（9～11月）

- ・ 9月終わりごろからタネが水の上に浮いてくるので、集めてください。はじめはタネの周りにゼリーのような皮がついていて水に浮きますが、じきに取れて沈みます。浮いている種が集めやすいです。
- ・ とったタネは水を入れた別の容器にしばらく入れて、ゼリーのような皮が取れたら軽く洗い、水を入れたペットボトル等に入れて冷蔵庫で保存してください。



ゼリーのような皮がついたタネ



皮のとれたタネ

後片付け

- ・ オニバスは1年で枯れます。葉が枯れたら、水を抜き、枯れた株は抜いて捨てましょう。枯れた株を土に混ぜてしまってもOK。
- ・ 来年もオニバスを育てたいときは、土をかき混ぜて天日干しにして乾かしてください。土の状態が良くなります。
- ・ 取り切れなかったタネが底に沈んでいるかもしれません。水を抜いた時に探してみましょう。



冬になり枯れたオニバス

注意!! オニバス・ミズアオイを捨てないで!

オニバスやミズアオイを川や池、水路などに捨てては絶対にダメ!

地域の自然に悪い影響を与えるかもしれません!